

東洋鋼鋅グループ

社会・環境報告書 2010



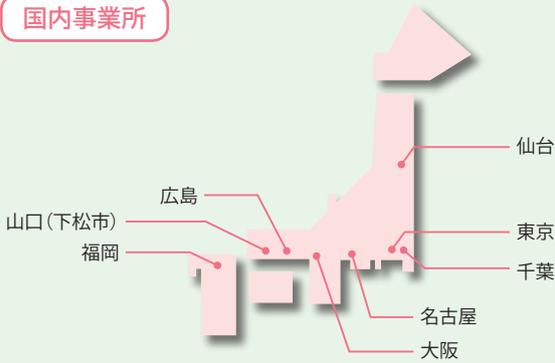
会社概要

東洋鋼鋅グループは、1934年の創業以来、快適で潤いある暮らしに欠くことのできない素材である「鉄」の豊かな可能性に着目し、表面処理鋼板界のパイオニアとして発展してきました。最新鋭の設備と高度な技術力を背景に、缶用材料をはじめ、高品質な各種薄鋼板、表面処理鋼板、高級化粧鋼板など優れた商品を世界に先駆けて開発、製品化し、多様なニーズにお応えしています。

また、磁気ディスク用アルミ基板、光学用機能フィルム、硬質合金、梱包資材用帯鋼、機械器具など、多岐にわたる分野に進出しています。

社名	東洋鋼鋅株式会社
英文社名	Toyo Kohan Co.,Ltd.
設立	1934年4月11日
資本金	50億4,000万円
従業員数	2,243名(2010年3月末連結)
売上高	1,065億円(2009年度 連結)
本社	東京都千代田区四番町2番地12
工場	山口県下松市東豊井1302番地
事業内容	ぶりき、薄板および各種表面処理鋼板ならびに各種機能材料等の製造・販売

国内事業所



海外事業所



■ 売上高、経常利益、従業員数の推移 (連結)



■ グループ企業の事業内容

連結	国内	鋼鋅商事(株)	鋼板類とその加工品の販売等
		鋼鋅工業(株)	鋼帯、自動結束装置、硬質合金等の製造販売および磁気ディスク用基板の製造
		KYテクノロジー(株)	建材製品および梱包資材の製造販売、製材並びに木材の加工販売、建設業、建築設計並びに工事監理
非連結	海外	TOYO-MEMORY TECHNOLOGY SDN.BHD.	磁気ディスク用基板の製造販売
		東洋パックス(株)	截断、検定、包装作業請負
		共同海運(株)	内航海運業、貨物利用運送業、通関業、海運代理店業
		下松運輸(株)	貨物自動車運送業、港湾運送業、通運業、倉庫業
		東洋パートナー(株)	福利厚生業務等の請負
		上海東洋鋼鋅商貿有限公司	鋼板関連商品、硬質材料、自動結束機などの販売および付帯サービスの提供
		湖南東洋利徳材料科技有限公司	表面処理製品の研究、開発、製造および販売

■ 社会・環境報告書発行の目的

東洋鋼鈹は2002年度に「環境報告書」初版を発行、2006年度からは国内グループ企業まで報告対象範囲を拡大して、東洋鋼鈹グループとして発行し、事業活動における環境負荷および環境配慮への取り組み状況など、環境情報を報告してきました。

2010年は、持続可能な社会の構築に対する東洋鋼鈹グループの事業活動を通じた取り組みを知っていただくため、社会的側面にも報告範囲を広げ、タイトルを「社会・環境報告書」へ改めました。

■ 報告書の要件

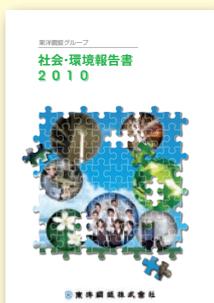
- 対象組織：東洋鋼鈹グループ
(ISO14001グループ統合認証取得8社*)
* 連結対象範囲とは一部異なります。
- 対象期間：2009年4月1日～2010年3月31日
(一部2010年8月までの情報も含まれます)
- 発行日：2010年10月(次回発行予定は2011年8月)
- 対象分野：社会的側面および環境的側面を報告の対象としています。
- 作成部署：東洋鋼鈹株式会社 監査部 環境グループ
- 連絡先：東洋鋼鈹株式会社 総務部
〒102-8447 東京都千代田区四番町2 番地12
TEL 03-5211-6211(代)
FAX 03-5211-0181
<http://www.toyokohan.co.jp>

表紙について

私たち、一人ひとり小さいピースでも、二つとして同じピースはありません。そして、皆が集まれば大きな力となり、素晴らしい世界を描くことができます。

今年の表紙は、私たちの個々の力をジグソーパズルに見立て、表現しました。残っている3ピースは、3年後のCSR報告書へのステップを示しています。

- この報告書は「環境省環境報告ガイドライン(2007年度版)」を参考に作成しました。
- この報告書は、色覚に障がいのある方にも読みやすいよう配慮いたしました。



CONTENTS

トップメッセージ	02
東洋鋼鈹グループの経営理念とCSR	04
身近なところに東洋鋼鈹グループ	06
2009年TOPICS ① 建物のあらゆる場所に優しい自然光を送り込む 「どこでも光窓」	08
2009年TOPICS ② 冷蔵庫の新たなデザイン展開をサポートする 「アルミ箔PET鋼板」	10

社会活動

コーポレート・ガバナンス	12
コンプライアンス	13
品質マネジメントシステム	14
社会とのコミュニケーション	16
従業員とともに	18
お取引先さまとともに	21

環境活動

環境マネジメントシステム	22
環境マネジメントシステムの状況/目標	23
環境に配慮した製品開発	24
省エネルギーと廃棄物削減への取り組み	25
環境への取り組み	26
環境会計	27
環境負荷低減への取り組み	28
環境保全活動の歴史	29

一人ひとりの思いを結集して 荒波を乗り越え、社会的価値の高い企業へ

—— 2009年度は中期経営計画「チャレンジャー」の最終年度でもありました。振り返ってみて、どうお感じでしょう。

一言で言えば、将来「東洋鋼鋳にきわめて大きな影響を及ぼした年だった」と振り返ることになる、そういう年度だったと思います。2008年秋のいわゆるリーマンショックによる大幅な生産の落ち込みや円高の影響で、弊社の事業を取り巻く環境にはかなり厳しいものがあり、回復にはなお時間がかかっています。しかしそうした中、我々は中間期で黒字を計上し、年度末に上方修正することができました。これは、現場が危機感を感じ、比例費および固定費のコストダウンをやってくれたことに尽きます。私はまだ現場にこんなに力が残っていたのかとびっくりしています。ここ数年、現場にはずいぶん助けられましたから、「今後はホワイトがもっと生産性を向上して現場を助けていかなければならない」2010年度以降はそうしていくつもりです。「リーマンショックにより、かえって会社全体に基礎体力をつけることができた」それが2009年度最大の収穫だと思います。

—— 社内が総力をあげた結果、筋肉質な体質に生まれ変わったということですね。

人間はギリギリの状態になると思いがけない力を発揮します。厳しい状況の中、社内の力が同じベクトルに結集したのだと思います。私自身もアゲインストの状況になるほど力が湧きたちなのですが、そうした私の思いを、さまざまな機会を通じて発信してきたことが奏効したのかもしれない。社長というのはオーケストラの指揮者のようなもので、タクトを振る思い一つで、同じ楽曲でも曲想が大きく変わる。今回はいい方向に変わったと言えるでしょう。

—— 創立75周年を機に、東洋鋼鋳は「経営理念」「行動指針」「ビジョン」を策定しました。そこに込められた思いをお聞かせください。

歴史を紐解いてみると、東洋鋼鋳は四半世紀ごとに大きな変革を成し遂げてきました。75周年に当たって、激動の時代を航海していくための灯台、迷った時に頼りにできる拠り所のようなものが必要だと思いました。75周年は、次の四半世紀の荒波を乗り越えて100周年を目指す船出の年です。高い目標を掲げた新中期経営計画「STEP UP 100」も、100周年を見据えて経営理念を実現していくための拠り所です。

—— 企業が成長するとともに、社会に対して果たすべき責任も重くなります。東洋鋼鋳の社会的責任については、どうお考えですか。

「利益をあげて税金を納め、国や地域に貢献する」それが企業の本来の姿です。しかし、利益をあげるために何をやってもいいかという、そうではなく、そこには必ずルールがある。そこから逸脱すれば企業として存続できなくなり、国や地域への貢献など不可能になります。あくまで「ルールに則って事業を展開することで社会に貢献する」それが我々の社会的責任だと思います。

たとえば、私利私欲で行動する個人、ある物質の環境や人体への悪影響を知りながら手を打たない企業、それはいずれもルール違反です。弊社は、飲料缶や内装材をはじめ、人々の暮らしや健康に直結する製品を数多く手がける企業ですから、自然環境や人体への悪影響などあってはならず、ルール違反は我々の事業そのものを脅かします。

今回から、これまでの「環境報告書」を「社会・環境報告書」に改めることにしましたが、これは、環境に対する取り組みも社

会に対する取り組みも、高い意識、高いレベルで進められるべきだという考え方を、あらためて明確に示すためです。

とはいえ、企業の社会的責任について、そう難しく考えることはありません。たとえば、ゴミが落ちていたら拾おうと考える、そういったごく当たり前の意識です。家の前にゴミが落ちていたら片づけるけれども、毎朝通勤する工場の前にゴミが落ちていたらどうするか。家の周りに子供が怪我しそうな箇所があったら自分で積極的に直すけれども、自分が通う会社に、社会や環境に対して何かおかしな点が見つかった時はどうするか。そのあたりに、企業の社会的責任を考えるヒントがあると思います。

—— 創立100周年に向けた社長の思い、東洋鋼鋳の未来像についてお聞かせください。

言うまでもなく、東洋鋼鋳で働く人々はここでの仕事によって生計を立てています。その意味ではみんなの目的は同じで、会社の中の肩書きなど、組織運営の便宜上考えられたものでしかありません。「みんな違って、みんないい」という言葉がありますが、まさに、さまざまな人々が「豊かな暮らし」という同じ目的のもとに集まっている。そうした人々が上もなく下もなく共生して知恵を出し合い、いいものを作って目

的を達成しようという思いが、私のメッセージの根底にあります。一人ひとりが、自己責任のもと同じ目的に向かって能力と気力を集めれば、その成果は結局一人ひとりの役に立ち、社会の役に立つということです。中期経営計画の根底にも、みんなで仕事をして利益をあげよう、利益のあがる仕事を開拓していこうという思いがあります。こうした計画は、誰か一部の人間が作ったものではなく、みんなが当事者意識を持って関わっていくべきものなのです。一人ひとりの人間力、一人ひとりの思いを結集していただきたい。自分が中心になって周りを巻き込むぐらいの強い思いがあれば、目標は達成できると思います。

東洋鋼鋳は今、100周年に向けて種をまき、土壌を作り始めており、そのために必要な人材育成や組織づくりを進めています。ステークホルダーの皆様には、世界に類を見ない鉄鋼メーカーを目指す東洋鋼鋳の今後に、ぜひご期待いただきたいと思っています。

東洋鋼鋳株式会社
代表取締役社長

田 中 厚 夫



東洋鋼鋸グループの経営理念とCSR

私たちは、缶用材料を中心としたものづくりを通じて、社会の発展と平和に貢献するとともに、社員一人ひとりが人間として成長するという志を、創業から現在まで代々受け継いできました。2009年度、より具体的な目指すべき目標として、経営理念・行動指針を策定しました。これらの目標達成こそ、東洋鋼鋸グループが社会に対して果たすべき責任＝CSRであると考えます。

経営理念

1. 東洋鋼鋸は永続的に有益な価値を提供し、地球環境や社会の進歩に貢献します。
2. 東洋鋼鋸はすべての社員が豊かな社会生活を営む環境を作ります。
3. 東洋鋼鋸は常に新しい技術の可能性を追求し、成長する企業であり続けます。

行動指針

- 1) 法令や社会的規範を守り、高い倫理観を持って行動します。
- 2) すべてのステークホルダーに対してコミュニケーションを実践し、社会との共生を図ります。
- 3) 互いの人間性、多様性を尊重し、透明性の高い職場を作ります。
- 4) 常に新しいことを探求する眼と挑戦する勇気を持ち続けます。
- 5) 一人ひとりが「素な心」を心に宿し、正々堂々と社会に新たな価値を作り上げます。

ビジョン

当社はぶりき製造で誕生した会社ですが、その技術を発展させ非鉄、樹脂等を精密加工することにより、世界の鉄鋼業で類を見ないビジネスモデルの会社を目指します。

新中期経営計画3カ年(STEP UP 100)

東洋鋼鋸グループでは、2010年度から新たな中期経営計画をスタートしました。その基本となる考え方は以下のとおりです。

① 販売部門の責任の明確化

販売部門の責任と権限を明確にし、具体的な事業計画を実行します。

② 販売部門と間接部門・生産部門の連携強化

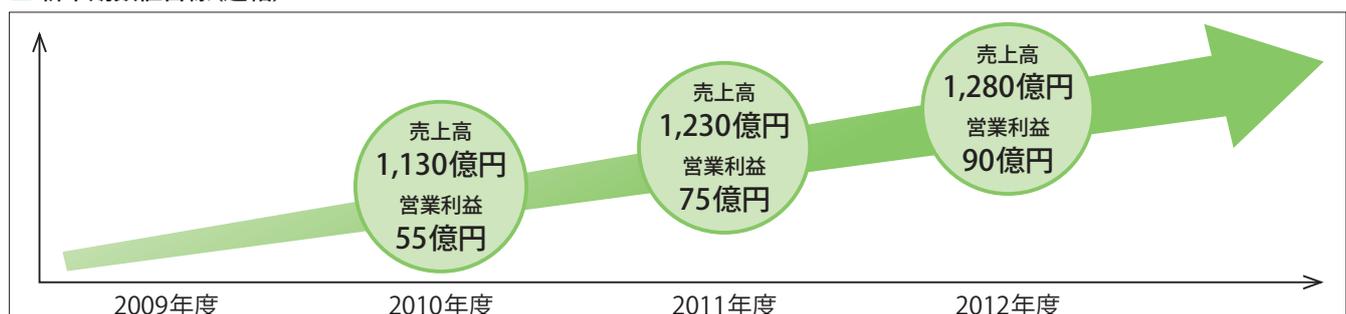
販売部門は間接部門(事務・技術)および生産部門との連

携をより深め、クイックレスポンス&見える化を東洋鋼鋸グループ全体で推進します。

③ グループ企業との協業強化

東洋製罐グループの一員としてグループシナジーを最大限に発揮できるよう、既存事業の基盤強化、研究開発の効率化、新規事業の創出を図ります。

■ 新中期数値目標(連結)



CSRとは?

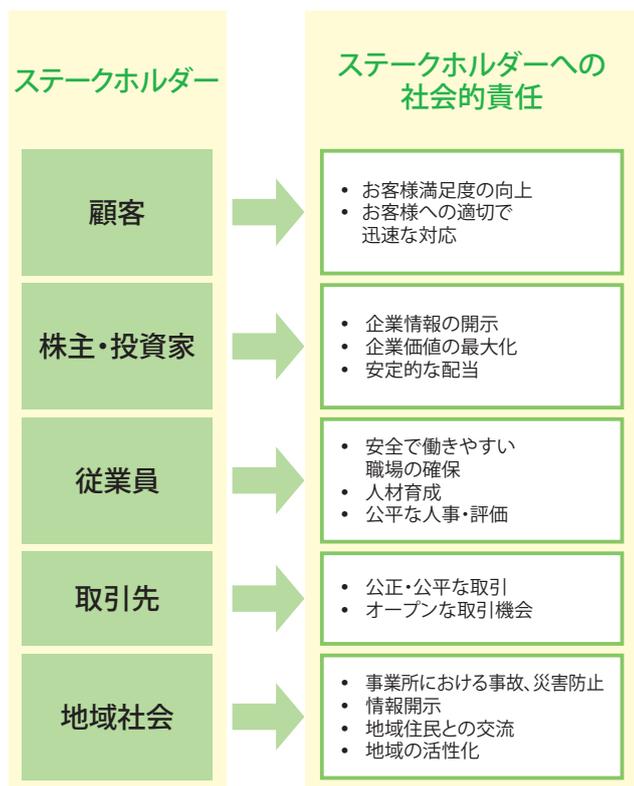
CSR：Corporate Social Responsibility＝企業の社会的責任とは、企業が利益を追求するだけでなく、組織活動が社会へ与える影響に責任を持ち、あらゆるステークホルダー（利害関係者：顧客、投資家等、従業員、取引先および地域社会）からの要求に対して適切な意思決定をすることを指します。企業の経済活動にはステークホルダーに対して説明責任があ

り、説明できなければ社会的容認が得られず、信頼のない企業は持続できません。私たち東洋鋼鋳グループは、社会の一員としてすべてのステークホルダーの期待に応え、よりいっそう優れた価値を提供できるよう活動しています。CSRは社会における企業のあり方を示す道しるべであると考え、社会から高い信頼を得られるよう取り組んでいきます。

人と地球にやさしい素材を届けることが東洋鋼鋳の使命です

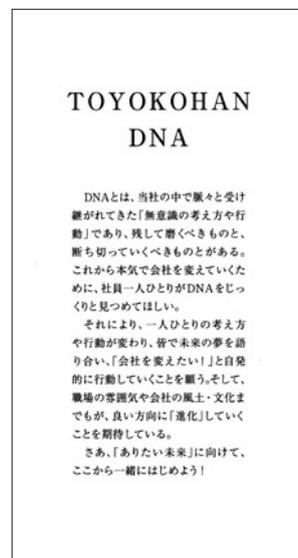


ステークホルダーに対する社会的責任



従業員への理念の浸透 ～TOYOKOHAN GATE 100～

東洋鋼鋳100周年に向かうプラットフォームとして、小冊子「TOYOKOHAN GATE 100」を発刊しました。この冊子には「経営理念」、「行動指針」、「ビジョン」の解説のほか、「TOYOKOHAN DNA」として東洋鋼鋳で受け継がれてきた考え方や行動を「DNA」として紹介しています。



身近なところに東洋鋼鋅グループ

街の中にあふれる東洋鋼鋅グループの製品を紹介します。

パソコン

■ 磁気ディスク用基板



いまや必需品となったパソコン。当社が培ってきためっき、超精密加工技術、それらが融合して記録密度の飛躍的向上を支えています。

DVDプレーヤー

■ 電気亜鉛めっき鋼板



好きなDVDをプレーヤーに入れて再生するときのワクワク感はたまりません。そんなときも東洋鋼鋅はあなたのそばにいます。

ユニットバス内装材

■ 樹脂化粧鋼板



お風呂にゆったり入るバスタイムは、大人も子供も大好きな時間。東洋鋼鋅は、その空間をスタイリッシュ&快適に演出します。

容器缶

■ ぶりき・ラミネート鋼板



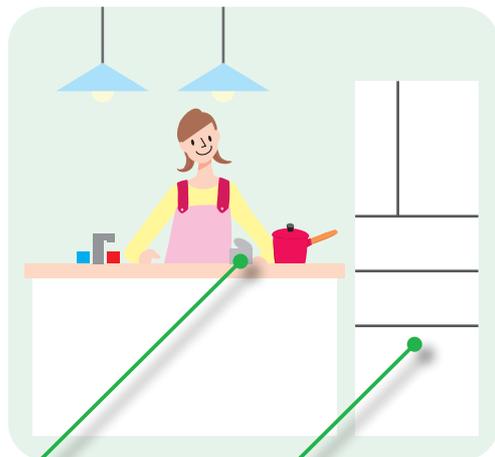
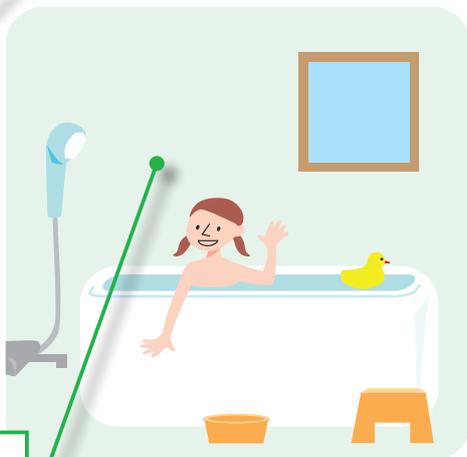
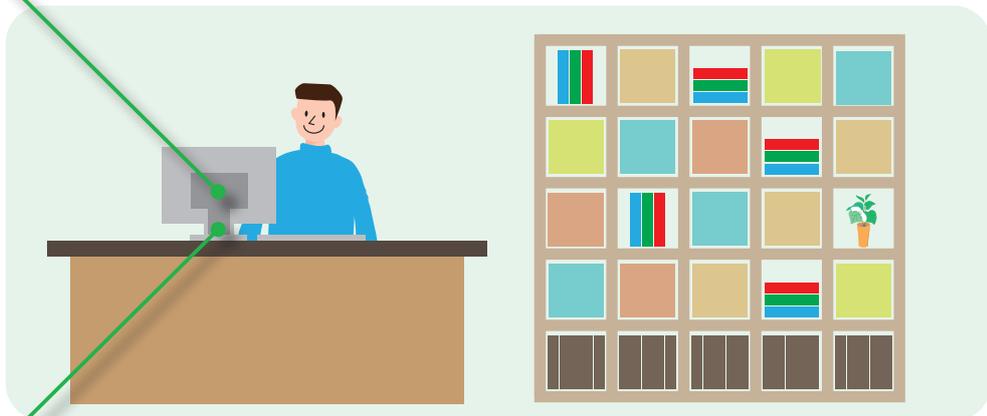
ツナ缶などの缶詰から高級海苔やお菓子がいった化粧缶まで、おいしい食べ物をおいしく届けるのも東洋鋼鋅の得意分野です。

冷蔵庫

■ 樹脂化粧鋼板



ジュースにビール、フルーツやアイスクリーム…。家族の大好物が詰まった冷蔵庫を開けるときは思い出してください。これも東洋鋼鋅です。



王冠

■ ティンフリースチール



シュポッと栓を開け、トクトクとグラスにビールを注ぐとき、1日の疲れもどこへやら。疲れと一緒に飛んだ王冠も、東洋鋼鋳の仕事です。

飲料缶

■ ラミネート鋼板



喉が渴いたときやホッとひと息ついたとき、みんなが手にする缶ジュース。そのおいしさを保っているのは東洋鋼鋳です。

駅ホーム屋根

■ 植毛鋼板



厳しい日差しや強い雨から、駅のホームを守ってくれる屋根。通勤、通学や旅先で、思い出したら見上げてください。きっとそこも東洋鋼鋳の仕事です。



燃料パイプ

■ ニッケルめっき鋼板

燃料パイプなどの自動車部品にも東洋鋼鋳の技術が活躍しています。劣化ガソリン・熱・排ガスなどに対して強いいため、長寿命化も実現しています。



電池材・ハイブリッドカー用バッテリー部品

■ ニッケルめっき鋼板

おもちゃ・家電品からハイブリッドカーまで、いろいろなところで大活躍の電池。その素材となる電池材も東洋鋼鋳の仕事です。





ふんだんな太陽光を照明に

「玄関や廊下が薄暗い。」「北向きのキッチンや洗面所にも快適な自然光があったなら…。」かつて叶えられることのなかったこうした望みには、今日、「光ダクト」という解決策が用意されています。採光の難しかった工場やオフィスビルの中心部、窓が設置できないクリーンルームも、このシステムの導入によって環境が大きく改善された例が増えています。

内部に鏡面材を使用したダクトに太陽光を取り込み、ダクト内の反射を利用して屋内に光を送り込むのが光ダク

ト。NEDO(新エネルギー・産業技術総合開発機構)による補助のもと建設された光ダクト実証住宅がマスコミで取り上げられたことなどもあって注目されるようになりました。当社は、電気を使うことなく、無限の資源である太陽光を活用して室内に快適な明かりを取り込むこのシステムの大きな可能性に着目、2006年に国産初となる光ダクト用素材の開発を開始します。☑

2009年TOPICS 1

建物のあらゆる場所に優しい自然光を送り込む「どこでも光窓」

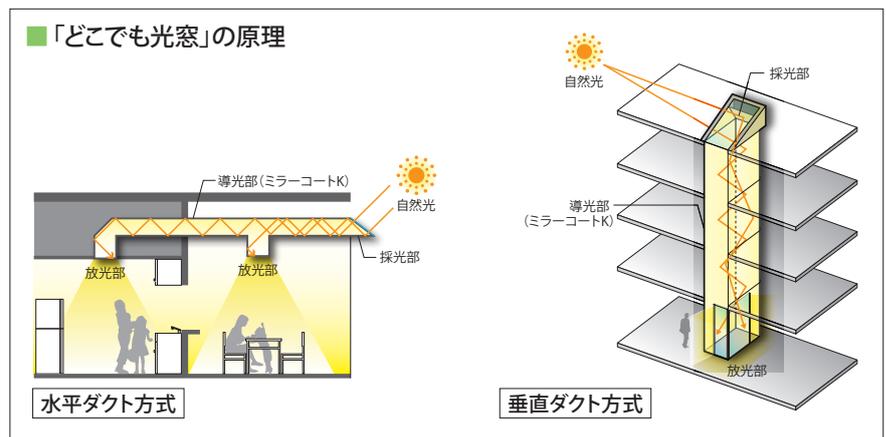
めっき技術で高品位な反射材を

光ダクト用の鏡面材には、可視光の反射率95%というきわめて高い条件が求められますが、当時は国産でこの条件を満たす製品がありませんでした。したがって、2007年に本格的なプロジェクトを立ち上げた当社が目指したのは、95%あるいはそれ以上という高い反射率を実現しながら、コストや加工の容易さなどの点で市場に価値を提供することでした。東洋製罐グループが既に第1号システムの設置を決めており、急ピッチで量産体制を確立するために開発チームが結成されました。

チームは、何よりもまず当社の強みを

活かすことが早道であると考えました。その強みとは、当社が蓄積してきた「めっきの技術」。開発にあたっては、コストを低く抑え、かつ、性能面では、

加工性等が要求されることを考えた結果、素材は鉄とし、金属の中でもっとも反射率の高い「銀」をめっきするというコンセプトで開発を進めました。☑

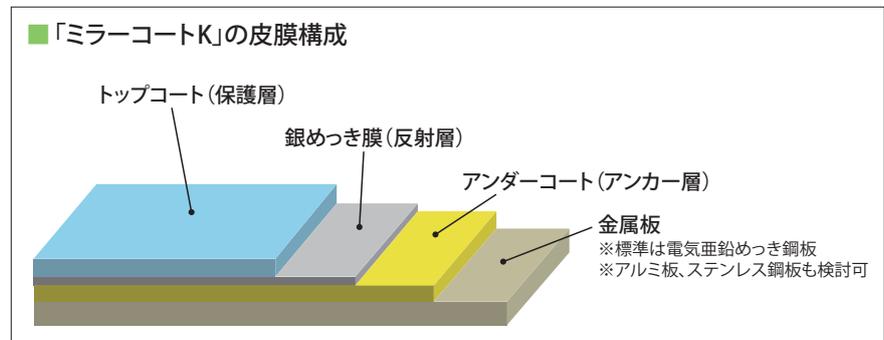


開発チームの集中力が生んだ努力の結晶

反射率95%という技術目標はきわめて高いハードルです。さらには、変色しやすいという銀特有の欠点を克服して輝きを維持する工夫、冬に反射率が上がらなくなることの原因解明など、チームはいくつものハードルを乗り越えていきました。こうした苦難の末に完成したのが「ミラーコートK」。金属板への銀鏡めっき処理技術を確立した世界初の製品です。空調ダクト方式のシンプルな構造によって、建物のあらゆる場所に太陽光を届ける当社の光ダクトシステム「どこでも光窓」。

その中核を成す「ミラーコートK」は、皮膜構成がわずか3層ときわめてシンプルで、反射率、耐久性、そして折り

曲げたり曲面にするなどの加工性に優れ、光ダクトのさまざまな可能性を広げます。☑



ダクト内部に鏡面材を使用し、建物内部へ自然光を送り込む、東洋鋼鈑の光ダクトシステム「どこでも光窓」。その自然光の搬送効率を支えているのが、独自に開発した鏡面材「ミラーコートK」です。



人間の健康に欠かせない自然光

自然光と無縁の生活を続けると、人間の体内リズムが崩れ、健康に大きく影響すると言われています。不規則な生活になりがちな現代社会において、建物に自然光を取り戻す技術は、そこで

暮らす人々、働く人々の健康な毎日に貢献するアイデアとして、また環境に優しい新たな照明のあり方として、今後ますます注目度を高めていくに違いありません。当社は、現在、さまざまな

機会をとらえて「どこでも光窓」「ミラーコートK」を知っていただく活動を続けるとともに、「ミラーコートK」を応用した照明器具など、さらなる可能性についての研究も開始しています。

「どこでも光窓」施工事例【JR東日本 大糸線 豊科駅】



待合室に垂直ダクト方式で「どこでも光窓」を施工しました。





“白モノ”の概念を塗り替えた技術

冷蔵庫をはじめとする家電製品は、今なお“白モノ”と呼ばれるとおり、白色を基調とする無機質なデザインが長く主流となっていました。ところが、1980年代後半に黒色の冷蔵庫が登場、“家電製品は白が当たり前”という常識を覆して新たなニーズを開拓し、大ヒット製品になりました。この時採用されたのが、東洋鋼鈹の「PET塩ビ鋼板」です。

東洋鋼鈹では、強度が高く加工しやすい鉄、耐食性に優れ意匠の自由度が高い塩化ビニール、それぞれの長所を

融合した化粧鋼板を開発し、建材などさまざまな分野で実績をあげてきましたが、その特性をさらに高め、透明度の高いポリエチレンテレフタレートフィルム(PETフィルム)という高分子フィルムを採用することで光沢や奥行き感のある意匠を可能にしたのがPET塩ビ鋼板です。それ以降、表面に柄のある冷蔵庫が増え、冷蔵庫の“顔”ともいえるドア部分の意匠はますます多彩になりました。☑

2009年TOPICS ☑

冷蔵庫の新たなデザイン展開をサポートする「アルミ箔PET鋼板」

新たな質感をそなえた鋼板への挑戦

その後、家庭用冷蔵庫には金属的な質感が求められるようになり、2002年頃からステンレス鋼板*1の採用が増え、PET塩ビ鋼板の需要は下降線をたどります。東洋鋼鈹にとっても大きな打撃でした。ところが、やがてお客様からステンレス鋼板は色調が暗く、意匠面でも多彩な表現ができない、高価な材料であり安定供給が難しいといった声が寄せられるようになりました。

金属感を失うことなく、明るいメタルの質感を持った化粧鋼板…。東洋鋼鈹はまた新たなチャレンジを開始します。まず開発したのは、一般的なアルミなどの金属を蒸着した「蒸着PET鋼板*2」。

しかし耐食性が十分ではなく、また意匠上の表現幅も狭いことがわかりました。次いでメタリック印刷などの技法による金属感の再現も試しましたが、リアリティーがありません。従来の鋼板用化粧フィルムの考え方では、ニーズにお応えできないことが明らかになっていきました。

*1 ステンレス鋼板

錆びにくくするためにクロムやニッケルを含ませた合金鋼。

*2 蒸着PET鋼板

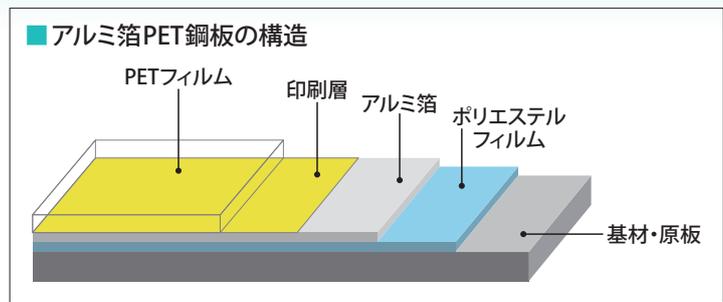
金属や酸化物などを蒸発させて、素材の表面に付着させる表面処理あるいは薄膜を形成する方法で金属感を出したフィルムをラミネートした鋼板。

アルミ箔との出会い

金属の質感を出すには、実際の金属を使うほかはない…。

ある時、開発チームは試行錯誤の末にそう結論し、フィルム層の間にアルミ箔を挟みこんでみることにしました。アルミ箔を用いたフィルムは、包装材の分野では数々ありましたが、鋼板へのラミネート処理という例はありませんでした。技術開発は困難を極め、社内はもちろん社外の関係者が知恵と技術を持ち寄って、お客様のご要望に応える物性を追求する日々が続きました。光沢、意匠の自在さ、フィルムとアルミとの密着性など、何度も試作を繰り返して工夫を重ねられ、冷蔵庫の☑

表面材にふさわしい特性が練り上げられていきました。特殊なラミネート技術も必要になりましたが、製造現場と知恵を出し合って実現することができました。☑



■従来の金属調化粧鋼板との比較

ステンレス

色調が暗く、絵柄が表現できないため、単調となり意匠性に劣る。
また、高価な材料であり、安定供給に難がある。

蒸着PET鋼板

耐食性、耐アルカリ性などに乏しく、質感に欠ける。



アルミ箔PET鋼板

金属の質感を出すためにアルミ箔そのものをポリエステルフィルムで挟み込んだステンレス調鋼板。明るい色調の表現が可能となり、グラビア印刷による多彩な意匠性も可能となった。



人々のライフスタイルの変化につれて、どんどん進化する家電。
特に冷蔵庫は、省エネ性能だけでなく、デザインや質感の面でも従来と大きく変わっています。
東洋鋼板は、さまざまな提案によって冷蔵庫のドア面材における進化を支えてきました。



お客様の期待を超える提案に向けて

こうしてようやく完成したのが、アルミ箔をポリエステルフィルムで挟み込む3層フィルム構造を採用したステンレス調の鋼板。業界初の高光沢金属化粧鋼板です。従来のステンレスでは得られない明るい金属感と透明感をそなえたこの新技術について、お客様からいただく評価は上々でした。意匠上の自由度はもちろんのこと、圧延技術を活かした原板の厚さ調整、テンパー変更など原価を低減する数々の提案も評価していただき、新世代の冷蔵庫にふさわしい面材として、最終的に採用されることが決まりました。蓄積された技とノウハウを基盤に、

お客様のご期待に沿うだけでなく、時としてご期待を超え、驚きの成果をご提案する東洋鋼板の技術、お客様の

ニーズに総力でお応えする体制が、またしてもブレークスルーを果たしたのです。



お客様の声

東洋鋼板さんの製品を採用し続けている最大の理由は、やはり意匠の豊富さ、鮮映性のよさ、光沢のよさにあります。ドア部分は冷蔵庫の顔ですから、ここを美しく見せてくれるたしかな技術を持っている点で高く評価しています。冷蔵庫の外観に対する要求は時代とともに変化しますが、意匠だけでなく、表面物性、材料特性についても私たちの要求を熟知し、私たちと同じ頭で考えてくれて、積極的な提案をしてくれるので安心感

があります。家電業界は海外シフトが進んでいますが、東洋鋼板さんはまだ海外生産拠点がなく、高品質素材を現地生産・供給できないのはもったいないと感じています。今後のグローバル展開に期待しています。

パナソニック株式会社
ホームアプライアンス社様



2009年パナソニック
エクセレントパートナーズ
表彰式の様子

コーポレート・ガバナンス

当社は、社会に有益な価値を循環させる会社であり続けたいと考えています。
この有益な価値をご提供するために、コーポレート・ガバナンスを重要な経営課題と認識し、
企業統治と企業リスク管理が有効に機能するように、経営の透明性と公正性の一層の向上に努めています。

ガバナンス体制

マネジメント体制

当社は、2006年より、経営の意思決定機能・監督機能と業務執行機能とを明確にし、経営環境の変化に対して迅速に対応するため、執行役員制度を導入しています。さらに、経営の機動性の向上を図るため、取締役および執行役員の任期は1年としています。

また、当社は、職務規程において組織の運営をさらに強化するために、各事業と各部門の執行責任を明確にする事業・部門担当制を採用しています。事業・部門担当には執行役員、参与または参事がその任に就き、取締役会の決定した方針に基づいて業務執行にあたっています。

監査体制

当社は、独立した会社の機関である監査役4名（うち社外監査役2名）で構成される監査役会を設置し、各監査役は取締役会等の重要会議に出席するほか、取締役の職務執行

の監査を行っています。内部監査については、内部監査部門が年度計画に基づき実施し、その監査結果は取締役会で報告されています。

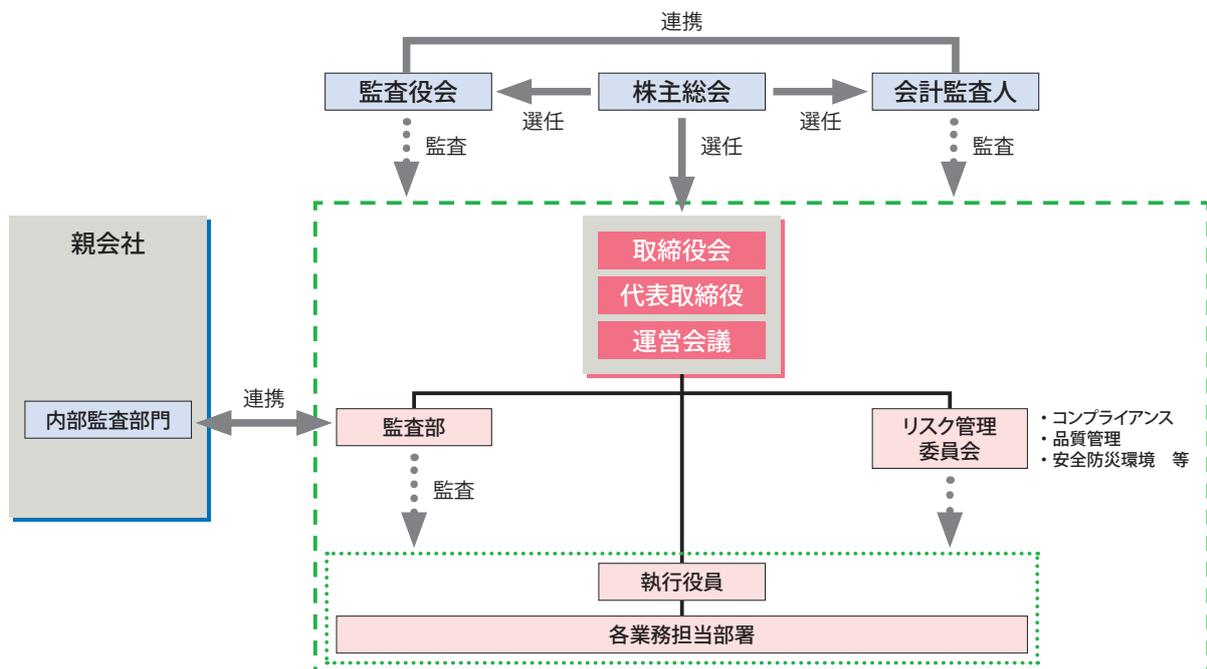
また、「内部統制システムの構築に関する基本方針」を取締役会で定め、本方針に基づき内部統制システムを整備し、運用しています。

リスク管理体制

当社は、事業運営に係るリスクを体系的に識別、分析、評価するとともに、全社横断的な対応を図るため、リスク管理委員会を設置しています。

具体的には、コンプライアンス、生産・販売、品質、環境、情報管理、自然災害・事故およびその他の予見されるリスクを取り上げています。

■ 内部統制システムの概要を含むコーポレート・ガバナンス体制 (2010年4月1日現在)



コンプライアンス

当社は、「社会的公正」や「法令順守」の実現には、コンプライアンスの徹底が不可欠と認識しています。行動指針に「法令や社会的規範を守り、高い倫理観を持って行動します」を掲げ、広く社会から信頼されることを目指して企業活動を遂行しています。

コンプライアンス運営

企業行動規準

当社は、2005年3月、役員および社員一人ひとりが高い倫理観に基づく適切な判断基準を持って正しく行動するための手引きとして「企業行動規準」を制定しました(2006年8月東洋鋼鋳グループ企業行動規準に改訂)。

企業行動規準は、東洋鋼鋳グループにおいて順守すべき事項としている次の項目から構成されています。

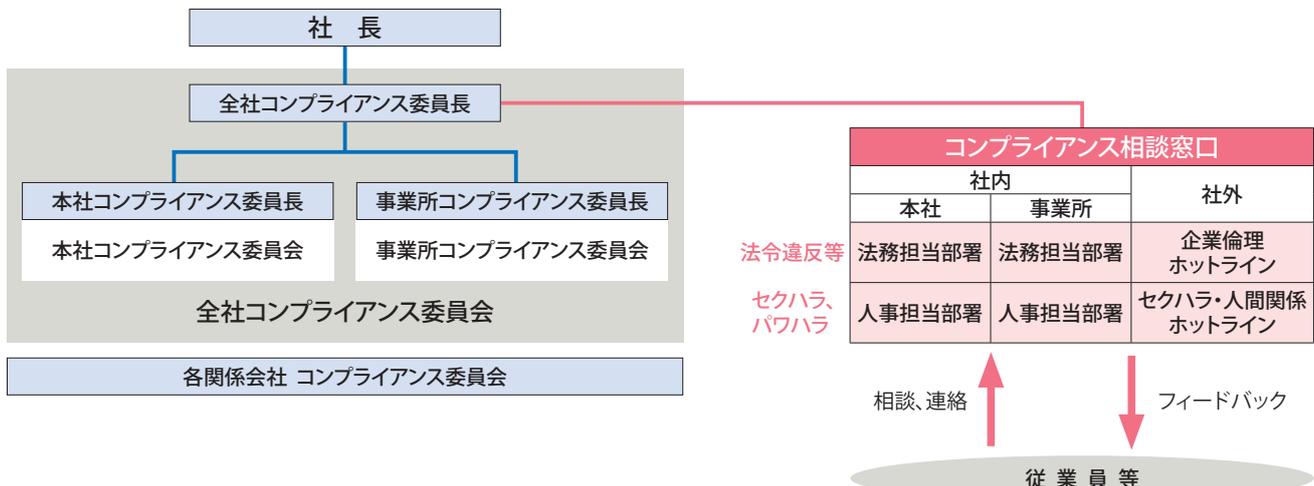
- ◆ 素材を供給する専門メーカーとしての取り組み
- ◆ 人権と個性の尊重
- ◆ 環境保全への積極的な取り組み
- ◆ 取引先・行政との健全な関係
- ◆ 情報の適正な管理と開示
- ◆ 反社会的勢力に対する姿勢
- ◆ 公私のけじめ
- ◆ 海外業務における心構え



コンプライアンス運営の仕組み

コンプライアンス・リスクを管理するため、リスク管理委員会の下部組織として本社および下松事業所にコンプライアンス委員会を設置しています。

■ コンプライアンス推進体制 (2010年4月1日現在)



コンプライアンス推進月間

2007年度から毎年10月を「コンプライアンス推進月間」として、従業員一人ひとりが自らの行動や日常業務のやり方を見直すなど、コンプライアンスのより一層の強化に取り組んでいます。

2009年度は、コンプライアンス推進月間や社外相談窓口のPRポスターの掲示のほか、関東学院大学准教授の小山巖也先生をお招きし、「企業不祥事とCSR経営～企業の社会的責任について考える～」と題して講演を行っていただきました。

個人情報の保護

当社では、2005年6月に、「個人情報の保護に関する法律」の全面施行を受け、個人情報に関する全社的な取り組みを実現するため、『東洋鋼鋳個人情報保護方針』を制定しました。当社は、事業活動を通じて取得した個人情報の取り扱いについて、法令等の順守を社会的責務と認識し、方針に基づいて個人情報の保護に努めています。

なお、当社個人情報保護方針の内容は、当社ホームページ (<http://www.toyokohan.co.jp>) に公開しています。

品質マネジメントシステム

当社は優れた品質の製品をお客様に提供することにより、広く社会に貢献しています。品質マネジメントシステム(QMS: Quality Management System)は、環境マネジメントシステムと共にマネジメントシステムの車軸の両輪の役割を担っており、それぞれ活動の効果を増幅し合えるよう、継続的な改善活動を展開しています。

東洋鋼鋳グループの 品質マネジメントシステム

東洋鋼鋳では、板類主体でISO9001の認証を取得していましたが、光学用機能フィルム上市に伴い、同部門においても今春認証を取得しました。

また、グループ会社の鋼鋳工業およびTOYO-MEMORY TECHNOLOGY (TMT)においても、ISO9001の認証を取得しています。

さらに2008年には品質管理委員会を新たに発足し、これら東洋鋼鋳グループのQMSの健全性を客観的に監視する体制をとっています。

◆ ISO9001 認証対象 ◆

東洋鋼鋳下松事業所

冷間圧延鋼板及び鋼帯、表面処理鋼板及び鋼帯(アルミ母材を含む)、並びにクラッド材の設計・開発、製造
樹脂フィルムの設計・開発及び製造

鋼鋳工業

機器工場

自動結束機・結束機・システム関連設備・省力機器・表面改質・ライン設備の設計、開発、製造、据付及び付帯サービス

電子材料工場

ハードディスク用基板の製造

硬質材料工場

硬質材料の開発及び製造、並びに精密加工品・金型の設計、開発及び製造

帯鋼工場

鋼帯・鋼シール及び樹脂帯の設計・開発及び製造

TMT

MANUFACTURE OF HARD DISK SUBSTRATE.

板類・クラッド材の 品質マネジメントシステム

ISO9001:2008年版への移行完了

2010年1月27・28日、板類・クラッド材の設計・開発および製造の分野で第12回サーベイランス審査兼移行審査が

行われ、3月4日の登録決定会議にて移行登録が承認されました。

品質管理部会報告

2010年4月15、16日に「内部・外部監査の有効性をあげるための取組み」を共通議題として日本鉄鋼協会第104回品質管理部会QAQC部門(会場:住友金属工業株式会社/和歌山製鉄所)が開催されました。

本大会では鉄鋼各社からの事例報告やアンケート結果報告があり、より良いQMSを目指して各社担当者による熱心な討論が行われました。当社からはQMSカルテを利用した定期内部監査やグルーピングによる特別内部監査の事例報告を行い、具体的な仕掛けの一つとして注目されました。全体では企業間の活動方法の違いはあるものの、共通の課題を抱えているため、参考になる事例も多く、当社への適用を見極めながら今後の改善活動に活かしていきます。

QMS組織および品質方針の見直し

2010年4月1日付けで下松工場が下松事業所に変更されたことから、トップマネジメントをはじめQMS組織の改正を行いました。

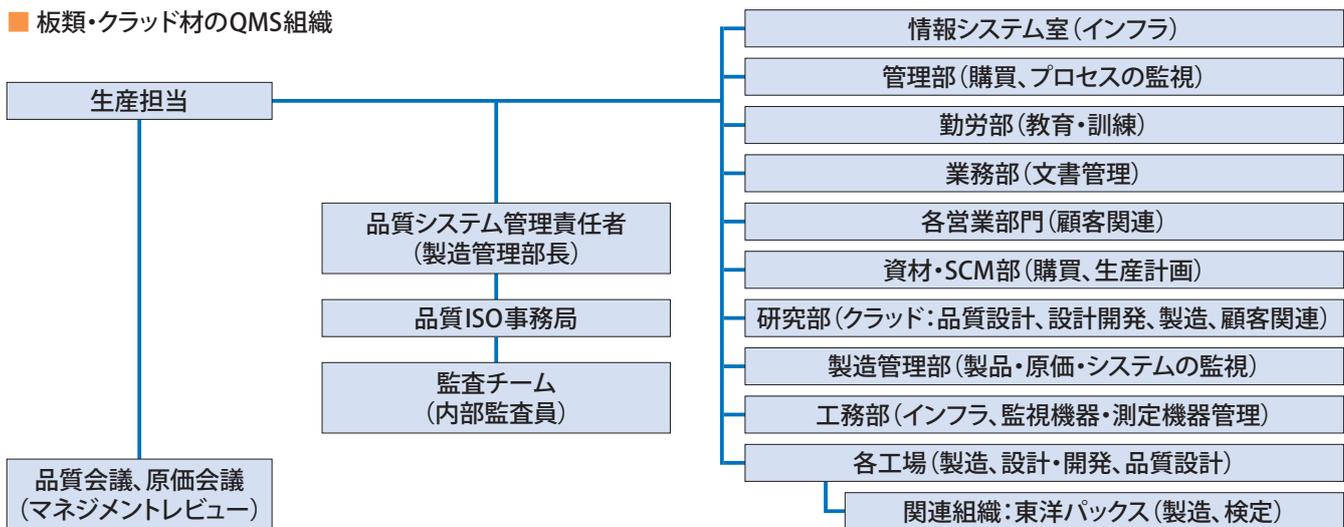
また、同時に品質方針も見直され、新たな中期経営計画を盛り込んだものになりました。

品質方針

1. お客様の予想を超える商品やサービスを提供する
(顧客重視)
2. 品質マネジメントシステムを遵守し、更に継続的に改善する
(継続的改善)
3. 法令・規準を遵守する
(コンプライアンス)

これをベースにして、中期経営計画(STEP UP 100)を具体化していく。

■ 板類・クラッド材のQMS組織

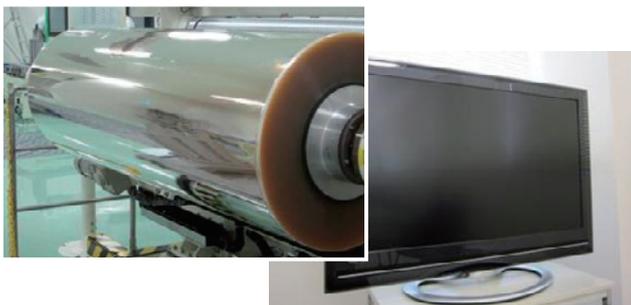


光学用機能フィルムの品質マネジメントシステム

ISO9001:2008年版の認証取得

2010年3月に「樹脂フィルムの設計・開発および製造」の範囲でISO9001:2008の認証を取得しました。現在は、液晶関連フィルムをメインとした活動に取り組んでいます。

この度、構築した品質マネジメントシステム(QMS)を有効に活用し、QMSの基本精神である顧客満足度向上を目指すとともに社会に有益で、かつ有害物質を含まない環境に優しい商品作りに今後とも取り組んでいきます。



鋼板工業の取り組み

グループ会社の鋼板工業では、4つの工場すべてで工場ごとにISO9001を取得しています。機器工場と電子材料工場は1999年9月に、硬質材料工場と帯鋼工場は2005年4月と5月にそれぞれ取得しました。

「お客様に信頼していただくために世界に通用するより良い

商品をより早く提供しよう」を品質方針とし、顧客満足度向上を目指して活動しています。

品質管理委員会

2008年7月、社団法人日本鉄鋼連盟より加盟各社に対して「品質保証体制強化に向けたガイドライン」が交付されました。このガイドラインは、鉄鋼連盟加盟会社に対して以下のような取り組みの推進を求めたものです。

- ①法令遵守の徹底と「品質保証」に関する意識改革
- ②不備・不適切な事例を発生させない仕組み
- ③不備・不適切な事例を検出する仕組み
- ④鋼材検査証明書の管理強化

当社では、このガイドラインを受け東洋鋼板グループの品質管理体制の健全性を監視し、その保持、改善を目的として、2008年9月に品質管理委員会が発足しました。

委員長には、全社の品質保証を総括する役員として技術開発部門の役員を選任しています。委員は、社内の品質保証以外の業務に従事する第三者からなり、公正な立場で考え、意見を出し、よりよい品質管理体制を整えるために活動をしています。

さらにその活動を強化するため、2010年4月の組織改正で本社に品質管理グループを設置し、同委員会の事務局を務めるとともに、品質管理体制の改善に取り組んでいます。

社会とのコミュニケーション

当社は、ステークホルダーとのコミュニケーションを通じて経営理念や行動指針を実践しています。地域社会においては、清掃活動や工場見学の受け入れをはじめ、様々な分野で取り組みを実施しています。

清掃活動

職長会・鋼隆会清掃奉仕活動

2009年10月3日、下松事業所の製造現場の第一線監督者で構成している職長会を主体に、係長クラスの鋼隆会などの36名が、1992年から行っているボランティア活動の一環として、特別養護老人ホームで清掃奉仕を実施しました。



除草・整地作業風景



清掃活動に参加して



職長会会長
横沼 健一

職長会では、福祉施設「松星苑」の支援活動を行っています。体育祭などの行事を行う際、駐車場が狭く、十分なスペースがありませんでした。そこで、空き地の除草・整地を行い、約50台分の駐車台数を確保することができました。この先も地域の皆様に大いにご利用頂ければこの上ない喜びです。

水を守る森林づくり推進事業、まちと森と水の交流会への参加

2009年11月7日、山口県周南市須々万にて山口県周南農林事務所主催の「水を守る森林づくり推進事業、まちと森と水の交流会」が開催され、当社からも従業員が参加しました。この交流会は、県民生活や企業活動に欠かせない森林の機能を理解し、森林の整備や適切な管理に対し企業の自主

的な活動を促進することを目的としています。当日は、森林での作業の説明の後、草刈り、伐採などを行いました。

工場見学、本社見学

下松事業所では、小学校をはじめとして地域の方々にいたるまで工場見学を積極的に受け入れており、その数は開始以来累計で3,300名に上ります。2009年度は約300名の皆さまが来場されました。また本社でも近隣の学校からの希望に応じ、毎年事務所見学、ショールーム見学を受け入れています。



下松事業所見学



本社ショールーム見学

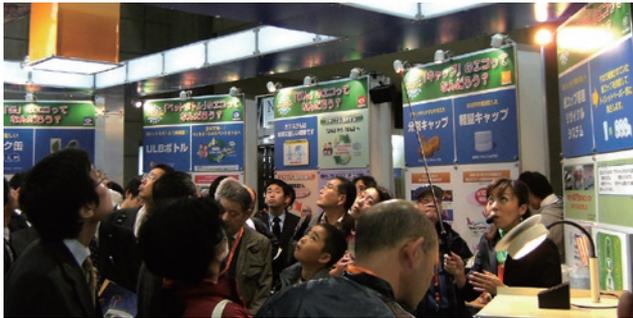
展示会開催

エコプロダクツ2009への出展

2009年12月10日から12日に東京ビッグサイトで「エコプロダクツ2009」が開催されました。当社は東洋製罐グループ

の一員として「どこでも光窓」を出展しました。3日間で東洋製罐グループブースへの来場者数は約1万人にもなり、大変好評でした。

当社の素材を使った「どこでも光窓」を「太陽光伝達システム」として紹介、展示したところ、来場されたたくさんの方々に興味をもっていただくことができました。



「どこでも光窓」出展風景

やまぐちいきいきエコフェアでCO₂表彰

2009年10月17、18日の2日間にわたり、山口きらら博記念公園において「やまぐちいきいきエコフェア」が開催されました。

地球温暖化対策や循環型社会形成への取り組みとして、当社の環境に優しい製品を説明し、来場された方々は熱心に耳を傾けられていました。

また下松事業所で実施してきた燃料転換、歩留向上等によるCO₂削減が評価され、イベント会場にて「地球温暖化対策優良事業所」として山口県から表彰されました。



エコフェア出展風景

優良事業所表彰式

山口国体の オフィシャルサポーターに

第66回国民体育大会(山口国体)および第11回全国障害者スポーツ大会が2011年10月に、山口県にて開催されます。山口県での開催は48年ぶりということもあり、山口県に事

業所を持つ当社もオフィシャルサポーターとなりました。2010年3月30日に山口県庁で国体募金感謝状贈呈式が行われ、国体実行委員会会長である二井関成知事から感謝状と「ちよるる(山口国体マスコット)」のぬいぐるみが贈呈されました。



国体募金感謝状贈呈式

義援金の拠出

2009年7月に山口県で発生した記録的豪雨の被災地の復旧支援や、日ごろからお世話になっている地域の被災された方々への支援として、山口県に義援金を拠出しました。



山口県義援金提供の様子

また、ハイチにおいて発生した大地震で被災された方々に対しても、日本赤十字社を通じ義援金を拠出しました。

ホームページでの環境情報公開

当社ホームページ(<http://www.toyokohan.co.jp/>)に、CSR・環境活動情報サイト「環境活動」を開設し、環境報告書の内容を公開しています。より詳細な環境情報も公開していますので、ぜひご覧下さい。



従業員とともに

昨年の創立75周年をステップに、
次なる飛躍である創立100周年を目指し、
その次世代を担う人材育成に力を注いでいます。

若手中心による 採用プロジェクト活動

東洋鋼鈹では「企業を継続的に成長させる源は人である」と考えるとともに、採用活動を「未来を共につくる仲間を見つける場」と位置づけています。そこで本年度から、学生の皆さんに当社の魅力をもっと理解頂くため、人事部門だけでなく若手社員をコアメンバーとしたプロジェクト活動を発足させました。そして、採用に関わる社員自身が「会社をどのようにしていきたいのか」「自分自身がどのように成長するのか」ということをじっくり考えた上で、そのビジョンや魅力を自分達の言葉で伝えることを目標に活動しました。

以下は、その活動内容の一部です。



採用プロジェクトメンバー

採用パンフレットの新規作成

メンバー発案の元、ものづくりを通じた当社の魅力と、その魅力を生み出す社員一人ひとりのつながりを意識し、部門を横断するプロジェクト風の紹介パンフレットを作成しました。表紙には、若手の「自ら未来を切り拓く」との想いを込めた言葉「open, the future」を学生向けメッセージとして発信しています。



若手メンバー制作による採用パンフレット

採用ホームページのリニューアル

採用ホームページに関して、会社として伝えたいことを発信するのはもちろんのこと、相手の立場に立って「学生さんが本当に知りたいことは何か?」「現状の内容で分かりにくい表現はないか?」といった視点でコンテンツの追加・訂正を行い、より魅力的な内容にリニューアルしました。



採用ホームページ

プレセミナー開催

従来実施しておりました「会社説明会」に加えて、鉄鋼業界全体のイメージや、製造業で働くことの魅力、社会人生活に対する素朴な疑問などにお答えするプレセミナーを開催し、

学生の皆さんに対して本格的な就職活動前に理解を深めるための機会を提供させて頂きました。



学生の皆さんを招いてのプレセミナー開催

次世代育成支援

2009年6月4日、山口県下松市に対して、次世代育成支援を目的とした寄付を行いました。これは、当社の創立75周年を記念して、地域への感謝と、益々の発展を願う地域貢献活動の一環として行ったもので、次代を担う子供たちが、豊かな心と夢を育み、健やかに成長していくための一助となることを期待したものです。



下松市への寄付の様子

これは、「次世代の豊かな心と夢を育む、ふれあいプロジェクト」と称し、下松市内の小中学生の、音楽、文化、スポーツ、学問等情操教育を当社が今後

継続的に支援していくものです。

これを活用した初めてのイベントとして、2010年1月26日に「つくってあそぼショー」がスターピア下松にて開催されました。市内の小学1～3年生1,550名の子供たちが教育テレビで人気のワクワクさん、ゴロリのコミカルなトークと、身近にある材料を使った工作ショーに大いに盛り上がりました。



つくってあそぼショーの様子

安全衛生・防災への取り組み

総合防災訓練

平成21年度山口県石油コンビナート等総合防災訓練が、下松事業所において実施されました。計22機関から人員約250名、車両20台、船舶12隻の参加があり、また、近隣自治会の参加による住民避難訓練も行い事業所だけでなく地域としての訓練となりました。

本訓練は山口県石油コンビナート等防災計画に基づき、石油コンビナート等特別防災区域に係る災害の発生を想定し、特定事業所等の実態に即した防災訓練を実施することにより、災害時における防災関係機関との連携による防災活動を習熟するとともに、相互間の綿密な協力体制の強化を図ることを目的とし、年1回山口県の総合防災訓練として実施されています。

訓練では山口県東部を震源とするM6.8の地震が発生し、下松市で震度6強を観測したと想定。下松事業所内においては、大型タンクローリーと普通乗用車の衝突事故により、負傷者が発生。さらに大型タンクローリーから軽油が流出し出火、危険物置場に延焼した等の想定で実施されました。



防護団と診療所員による負傷者救助風景



危険物置場延焼を想定した一斉放水風景

健康ウォーキング

従業員の健康管理を目的に本社・支店・事業所でウォーキング大会を実施しました。



【本社】2009年 7月 4日(土) 33名参加
10月31日(土) 31名参加



【支店】2009年11月1日(日) 13名参加



【事業所】2009年11月21日(土) 94名参加

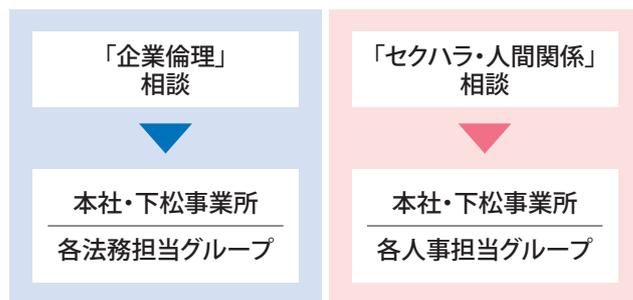
相談窓口

企業行動規準をはじめコンプライアンスに関して疑問や質問があったとき、または法的、倫理的に不適切な問題の発生に気付いたときに相談、連絡するために社内の相談窓口と社外の相談窓口を設け、組織の自浄作用による解決を目指しています。

この制度の利用者が不利益を受けないことや個人情報等の保護については、社内規程に明記しており、社員が安心して利用できるようになっています。

社内相談窓口

東洋鋼鋳グループにおいては各社それぞれで社内相談窓口を設置しています。当社は次の部署が対応しています。



社外相談窓口

社内の人には相談しづらい、あるいは社内窓口相談したなかなか対応してもらえないといった場合に備え、東洋鋼鋳グループ各社が共同して社外相談窓口を設置しています。具体的には「企業倫理ホットライン」と「セクハラ・人間関係ホットライン」を設置し、2008年4月からは匿名での受付や職場の人間関係の悩みの相談も開始し、相談機能の拡大を図っています。



お取引先さまとともに

当社は、資材調達においては、従来からの品質・価格・納期という調達基準に加えて、「資源保護」、「環境保全」など環境面に留意した調達活動を行っています。

また、サプライチェーンマネジメントにおいては、経済効率の追求にとどまらず、「環境負荷低減」の視点を取り入れ、調達・製造・配送・販売・回収における各プロセスの連携を強化する活動を行っています。

調達およびグリーン調達ガイドライン

当社は、法令や社会的規範を守り、高い倫理観をもって行動するという行動指針に基づき適正かつ公正な調達活動を実行するために、調達ガイドラインを策定しました。

また、昨今、EUのRoHS指令*1・REACH規制*2をはじめ各地域で製品への有害物質の含有を規制する動きが本格化しています。

そのため、購入する原材料、資材における有害物質の徹底排除と環境負荷低減に向けた、適切な資材調達が必要とされています。

当社は、こうした状況に鑑み、調達ガイドラインの中に「環境面に配慮したグリーン調達」を推進することを目的として、「グリーン調達ガイドライン」を策定しました。

■ 調達およびグリーン調達ガイドライン

調達ガイドライン

1. CSRに配慮した調達活動
2. 経済合理性追求
3. パートナーシップの構築・強化
4. 情報共有化・サプライチェーンマネジメント推進

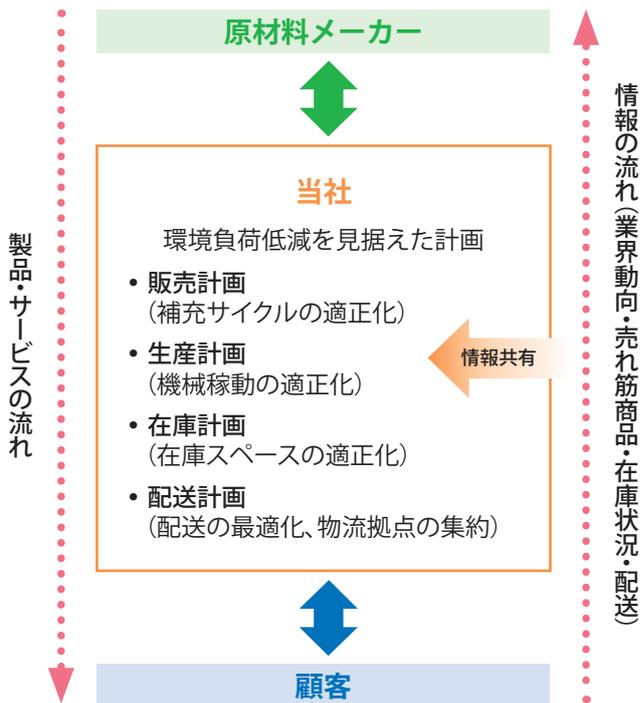
5. グリーン調達の推進

- ① 環境保全に積極的に取り組む取引先からの調達を優先するとともに、より環境負荷の低い資材を優先的に購入します。
- ② 有害化学物質の代替、省エネルギー、省資源、廃棄物減量化、再利用など全社環境方針に沿った調達活動を推進します。
- ③ グリーン調達ガイドラインを策定し、これに従って規制化学物質の管理を行い、有害化学物質の削減に努めます。
- ④ 大気汚染物質、地球温暖化物質、有害物質など環境負荷の高い物質に関しては、可能な限り代替物質へ切り替えるとともに代替技術の採用を行います。

サプライチェーンマネジメント

当社は市場変動への迅速な対応と効率的な生産を目指して、サプライチェーンマネジメント活動を積極的に推進しています。「原材料調達」→「自社生産・販売」→「顧客使用」という一連の過程においても環境への配慮が重要であるとの認識に立って、情報を共有化する枠組みを構築しながら、環境負荷低減に取り組んでいます。

■ サプライチェーンマネジメント



*1 RoHS (Restriction of the Use of Certain Hazardous Substances in Electrical and Electronic Equipment) 指令

概要：電気・電子機器に含まれる特定有害物質（鉛、水銀、カドミウム、六価クロム、ポリブロモビフェニル、ポリブロモジフェニルエーテル）の含有規制。
調査対象：EU領域内で販売する、電気・電子機器製品と製品を構成する全ての部品。

*2 REACH (Registration, Evaluation, Authorisation and Restriction of Chemicals) 規制

概要：EUにおける化学品の登録・評価・認可および制限に関する規則。
サプライチェーンを通じ、消費者などに高懸念物質(SVHC)の安全性や含有情報を提供する義務あり。
将来的には、約1,500物質がSVHCとして特定される可能性あり。
調査対象：EU領域内で製造または輸入する化学物質。

環境マネジメントシステム

東洋鋼鋅グループでは、東洋鋼鋅下松事業所が1999年12月にISO14001認証を取得し、さらに2004年12月には、東洋鋼鋅全社および国内グループ企業8社を含めて範囲拡大し、認証取得しました。現在は、グループ企業8社での統合環境マネジメントシステムをグループ環境経営の基盤とし、環境負荷低減活動および環境リスク管理活動を継続的に推進しています。

環境方針

環境方針は、東洋鋼鋅下松事業所における産業公害の廃絶と地域社会との共生を基本姿勢として、1973年10月に制定して以来、環境問題が様相を変えるにつれ、都度改正を行い、現在に至っています。

現在の環境方針は、グループ統合環境マネジメントシステム認証取得後、循環型社会の構築に向けて自主的に行動する方針へと2005年7月19日付で改正されたものです。

基本理念

東洋鋼鋅グループは、地球環境の保全、さらには地球環境の質的改善が人類共通の最重要課題であることを強く認識し、企業活動のあらゆる面で環境に対するきめ細やかな配慮を行いつつ、持続的に発展する循環型社会の形成に貢献します。

行動方針

- 1) 地球環境の保全活動を推進させるため、必要な組織を整備します。
- 2) 法規、条例およびその他の要求事項を順守するとともに、自主的な管理基準を設定し、環境管理の継続的向上に努めます。
- 3) 生産、販売する製品のライフサイクルにわたる環境負荷を事前に評価し、環境保全に留意した製品開発、技術開発を推進します。
- 4) 企業活動全般にわたり省エネルギー、省資源に努めるとともに、発生する廃棄物の減量化、再利用を推進し環境負荷を低減します。
- 5) 大気汚染物質、地球温暖化物質、有害物質など環境負荷の高い物質に関しては、可能な限り代替物質へ切り替えるとともに代替技術の採用を行います。
- 6) 地球市民として、リサイクル運動などの社会貢献活動に積極的に参画します。
- 7) 社員の環境意識を高揚するために、教育、啓発、広報活動などを行うとともに、地域の環境改善活動への自主的参加を支援します。

(2005年7月19日改正)

環境マネジメントシステムの状況／目標

2009年度の活動の結果による

環境目標の活動状況・評価は以下のとおりです。

また、2009年度は3年ごとの目的の評価年でもあったことから

目的の評価も行いました。

2009年度の活動状況・評価

No.	グループ環境目的	グループ環境目標		評価結果	
		目標項目	目標値	目的	目標
1	環境配慮型製品の開発および拡販	既存製品の拡販	グループ各社独自目標の達成	○	○
2		製品の開発	グループ各社独自目標の達成		○
3	環境負荷低減	省エネルギーの推進	エネルギー使用量の削減：前年度比-1%	○	○
4		廃棄物量削減と再資源化の推進	廃棄物量削減		○
5			再資源化率向上		○
6		化学物質管理	PRTR対象物質削減検討		○
6		グリーン調達推進	事務用品グリーン購入比率80%以上		○
7	EMSの発展	グループEMSの充実	環境関連法順守の強化	○	○
8			内部監査の強化		○
		コミュニケーションの促進	グループ環境報告書の充実 (環境報告ガイドライン2007年版に沿った内容の充実)		○

- 1) 環境配慮型製品の拡販は、販売部門が販売数量および販売比率の拡大に取り組みました。また、環境配慮型製品の開発は、開発部門が設定した目標を達成し、ともに着実に成果を上げています。
- 2) 省エネルギーの推進は、グループ全体として2008年度比7.5%の削減と大幅に目標を達成しました。引き続き省エネ活動を推進していきます。
- 3) 廃棄物については、2008年度比21%の削減が図られました。
- 4) 製品含有規制化学物質管理については、一部工程で規制化学物質を含有しない薬品への変更を行いました。他ラインへの適用についても検討を進めます。

2007年度から2009年度の環境目的に対する評価

3年間の環境目標に対する評価結果から総じて達成と評価しました。

2010年度の環境目標

2010年度の環境目的および目標は以下のとおりです。

No.	環境目的	環境目標	
		目標項目	目標値
1	環境負荷低減	環境配慮型製品の拡販	販売予算の達成
2		環境配慮型製品の開発	開発目標の達成
3		生産活動における省エネルギーの推進	エネルギーおよび燃料使用量 売上高原単位向上：前年度比-1%
4		廃棄物排出量の削減	廃棄物排出量 売上高原単位向上：前年度実績未達
5		排出物の再資源化推進	埋立廃棄物量および単純焼却処分量 売上高原単位向上：前年度実績未達
6		物流における二酸化炭素排出量削減	二酸化炭素排出量 ton・km原単位向上：前年度比-1%
7		化学物質管理	PRTR対象化学物質の排出・移動量 売上高原単位向上：前年度実績未達
8		環境リスク低減	環境関連法の順守

環境に配慮した製品開発

東洋鋼鋅グループは、単に素材を供給するメーカーとしてではなく、人の暮らしと豊かなコミュニケーションを何よりも大切に、新しい材料の開発を通して環境と調和した持続的に発展する循環型社会の形成を目指します。

CO₂排出量低減型製品「ハイペット」

環境負荷低減に有効な缶用材料「ハイペット」は当社の主力製品です。ハイペットは東洋製罐株式会社のTULC缶の素材として開発され、コーヒー、ビールなど飲料缶の多くに採用されています。また、食缶用のラミネートDR缶、業務用の18リットル缶やホワイトキャップといった様々な用途にも採用されており、環境配慮型製品としてさらなる拡販に注力しています。

ハイペットは、リサイクルに有効な鋼材やアルミをポリエステルフィルムでラミネートした材料であり、製缶工程での塗装工程を省略することでCO₂の排出大幅低減を可能としました。また、TULC缶では洗浄工程を省略できることで水の使用を不要とし、環境・衛生面でも大きな利点を発揮しています。



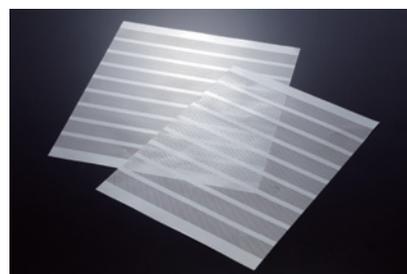
缶用材料「ハイペット」

ニッケルめっき鋼板「ニッケルトップ」

走行時の環境負荷の低い自動車として電気自動車、水素自動車、燃料電池車がありますが、現在、実際に量産型として走っているのは、ガソリンエンジンと電気モーターの2つの動力源をもつハイブリッド自動車(HEV)で、エコカーの代名詞ともなっています。

このHEVにはニッケル水素電池が使用されており、その電極材として当社のニッケルめっき鋼板「ニッケルトップ」が使

用されています。この電極用の鋼板は、当社独自の表面処理技術とミクロン単位の極薄圧延技術、そして、ロータリープレス方式という新しいプレス技術を複合させた製品で、HEVを支える重要な部品のひとつとなっています。



ニッケルめっき鋼板「ニッケルトップ」

照明器具用高効率反射板「ミラーコートK」

「どこでも光窓」の反射材として開発された「ミラーコートK」は、その高い反射率を活かし、照明器具の反射板にも採用されています。工場など天井が高い建築物向けのナトリウムランプやメタルハライドランプの反射笠もその一つです。当社下松事業所やグループ各社の工場に設置して行った実験では、従来の高反射率笠よりも照度を平均で約40%も向上させることが実証できています。導入により、電力使用量やCO₂排出量の削減に大きな効果が期待できます。

また、この反射笠は、グループ会社のKYテクノロジーが独自に開発した加工技術で製作しています。



ミラーコートKを用いた照明反射板



省エネルギーと廃棄物削減への取り組み

当社は、環境に与える負荷を軽減するため、省エネルギーおよび廃棄物の削減に取り組んでいます。ここでは、2008年11月に新設された業務改革推進部が主体となって実施した主な項目および効果についてご紹介します。

省エネルギーの推進

当社は2008年11月の組織改正で「人材」「省力」「省エネ」「省資源」の4つのグループからなる業務改革推進部を新設しました。省エネルギー活動はこのうちの省エネグループが中心となって、当社下松事業所全体のエネルギー資源（電気・蒸気・ガス・油）の使用量削減や、大気、排水に放出されるエネルギーの回収利用を関係職場と協力して推進しています。

省エネルギー活動推進項目として、

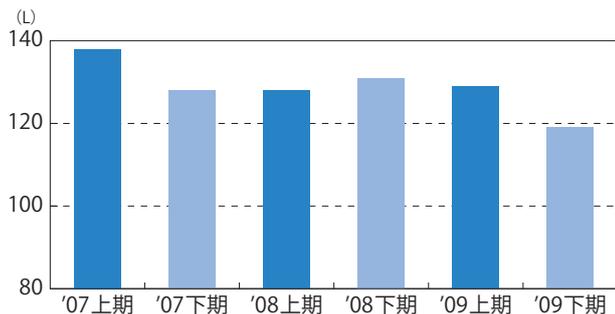
- ・焼鈍ラインやめっき処理ラインからの廃熱回収や熱交換設備の増強
- ・加温設備の保温対策などによる放熱量削減
- ・クーリングタワーや送電系統（トランス）の集約
- ・待機電力削減（運用見直しによる主電源の遮断）
- ・省エネバーナーや高動力伝動ベルトなどを使った設備の高効率化、運用手順変更による効率のよい設備運転
- ・空調エリアの縮小

などを行っています。

例えば、当社では製造ラインで使用する高压エアを、使用量に合わせて6台のコンプレッサーを制御し製造していますが、制御圧力と運用方法を変更することにより、のべ稼働時間を削減し、製品1トン当りのコンプレッサー電力量を約9%削減しました。

これらの活動の推進で2009年度の当社製品1トン当りのエネルギー使用量は下期に入って低減し、約8.5%の削減を実現しました。

■ 製品1トン当りのエネルギー量（原油換算）



その他、含油スラッジから油を回収し、蒸気発生用のボイラーで使用するも行いました。油分回収後の排水は社内処理できるため、ボイラーで使用する油糧の削減ができるのと同時に産業廃棄物が年間約180トン削減できました。省エネルギー項目としてこれまで166項目を検討し、2009年度は62項目を完了しました。引き続き72項目を推進中です。これらの省エネルギー項目の推進により2009年度ではCO₂排出量を約13,400トン削減できました。

廃棄物削減への取り組み

当社業務改革推進部省資源グループは副資材使用量の削減に取り組んでいますが、廃棄物量の削減も同時に推進しています。

2009年6月には当社排水処理設備から排出される汚泥の発生量削減の検討を開始しました。汚泥は排水中に含まれる金属イオンなどを硫酸鉄などの沈殿助剤を添加することによって凝集沈殿させてできるものですが、当社では年間約6,500トンの汚泥が発生し、産業廃棄物として外部処理を行っていました。排水処理設備内でのpH条件を変更して凝集しやすい条件を作るとともに、生成した汚泥を沈殿助剤として再利用し、硫酸鉄添加量をほぼ半分まで削減することにより年間約1,800トンの汚泥発生量削減を実現しました。

今まで廃棄物としていたものを資源として有効利用することにも取り組んでいます。コイルの熱処理（バッチ焼鈍処理）で変形して使用できなくなった鉄スリーブ（コイル内巻を保護するためのリング）は今まで鉄屑として廃棄していましたが、2009年10月、社内での修正加工手順を取り決め、再生使用を開始しました。2009年度に再生したスリーブは1,085本（84トン）に上っています。

また、2009年度は、廃棄物として処分していた廃グリッド粉・ニッケルめっきスラッジを鉄源・ニッケル源として分別回収し、社外へ売却することも行っています。

環境への取り組み

東洋鋼鋅グループは、環境関連法に基づき、化学物質および廃棄物等の適正管理を実施し、環境負荷低減活動を展開するとともに、環境汚染の発生を未然に防止しています。また、万が一の汚染発生時には、その拡大を防止すべく、緊急事態への対応訓練を実施しています。

環境リスクマネジメント

緊急時の対応訓練(下松事業所)

東洋鋼鋅グループは、多量のエネルギー、薬品等を使用する工場で事故が発生した場合、地域社会にも大きな影響をもたらすことを認識し、事故発生の防止のために厳しい自主基準による管理を実施し、環境リスクの低減を図っています。また、万一の事故の発生に備え、緊急事態への対応手順を定めて、定期的な訓練を実施しています。さらに下松事業所では、全社での対応を確認するため、本社と合同で訓練



環境訓練の風景

を実施しています。今年度も訓練を実施し、確実な処置および社内での伝達、関係先への通報等問題なく行われました。

緊急時の対応訓練(本社)

2009年12月2日、本社においても緊急時の対応訓練の一環として、防災訓練が行われました。例年通り、消火器による初期消火訓練を実施した後、今回は、模擬煙を充満させたブースが設置され、実際に煙に巻かれるといかに視界がふさがれるかを身をもって体験しました。



初期消火訓練



煙体感訓練

PCB廃棄物の管理

PCB廃棄物については、適切な保管、届出を行い、日本環境安全事業株式会社(JESCO)のスケジュールに従い処理する予定です。

環境測定

排水や排ガスの状況については、定期的な分析や自動分析装置による連続測定により常に監視を行い、環境異常の未然防止に努めています。

アスベスト対策

下松事業所の石綿(アスベスト)は、吹き付け材については撤去を行い、既存設備に使用された非飛散性の石綿含有製品についても、補修等に併せて非石綿製品へ交換を行っています。また、建築物・工作物解体時には事前の届出および作業場の隔離等の措置を徹底しています。

環境関連法規制への対応

環境関連法規制順守状況

2009年度は、法令違反となる事故は1件も発生しませんでした。埋設配管の穴あきによる排水の海域への流出という1件の環境関連異常が発生しました。この異常に対しては、配管を補修するとともに、事業所内埋設配管の調査を実施し、主な埋設配管の点検ならびにライン埋設配管の地上化を計画するなど、再発防止対策を講じています。

化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)

東洋鋼鋅グループのPRTR法に基づく化学物質の排出量は前年度と比べ微減でしたが、移動量は前年度比30%の減少となりました。中和還元処理剤の適正量投入や還元処理剤の有効利用等により、ニッケル含有汚泥が減少したためです。

環境会計

環境会計とは、「事業活動における環境保全のためのコストと、その活動により得られた効果を可能な限り定量的に把握し、分析し、公表するための仕組み」です。2006年度実績から、グループとしての集計を実施しています。

(集計範囲:ISO14001 グループ統合認証取得8社 対象期間:2009年4月1日~2010年3月31日)

環境保全コスト

2009年度の環境保全コスト総額は、不況のため、前年度比約40%減少しました。環境負荷の低い製品の開発費も同様に半減となりました。

(単位:百万円)

分類	主な取り組みの内容	設備投資額		費用額	
		2009年度	2008年度	2009年度	2008年度
事業エリア内コスト		124	930	880	901
内訳	公害防止コスト	41	22	326	385
	地球環境保全コスト	66	908	0	2
	資源循環コスト	17	0	554	515
上下流コスト	包装材の回収リサイクル	0	0	313	348
管理活動コスト	ISO14001 維持向上活動、環境負荷監視	0	0	80	107
研究開発コスト	環境負荷の低い製品開発	2009年度	2008年度		
	設備投資額+費用額	206	456	21	141
	全研究開発費	1,465	1,646	185	315
	対全研究開発費比	14.1%	27.7%		
社会活動コスト	環境美化活動	0	0	1	0
環境損傷コスト	環境に与える損傷に対応して生じたコスト	0	0	0	0
合計		145	1,071	1,458	1,672
	全設備投資額	3,147	5,944	-	-
	対全設備投資額比	4.6%	18.0%		
環境保全コスト合計 (設備投資額+費用額)		2009年度		2008年度	
		1,603		2,743	

環境保全効果

鋼板類の生産量が約10%減少したことにより、エネルギー使用量とそれに伴うCO₂排出量、廃棄物排出量が減少しました。排出量減少の主な要因は、鉄屑(有価物)の減少によるものですが、埋立廃棄物となる排水処理汚泥の減少によるところも大きく、汚泥発生抑制のために中和還元処理剤適正量投入等の管理を継続実施し、さらに還元処理剤の有効利用等により、前年度比20%の削減が達成できました。

効果の内容			環境負荷指標		
項目	単位	総量		対前年度比削減量 (率)	
		2009年度	2008年度		
事業エリア内で生じる 環境保全効果	エネルギー使用量	TJ	4,027	4,293	266 (6.2)
	内訳	電力由来	2,911	3,067	156 (5.1)
		電力以外	1,116	1,227	111 (9.0)
	水使用量	千 m ³	14,478	16,512	2,034 (12.3)
	CO ₂ 排出量	千 t-CO ₂	261	280	19 (6.8)
	内訳	電力由来	201	212	11 (5.2)
		電力以外	60	68	8 (11.8)
	廃棄物等総排出量	トン	71,589	78,956	7,367 (9.3)
	廃棄物量	トン	6,253	7,926	1,673 (21.1)

環境負荷低減への取り組み

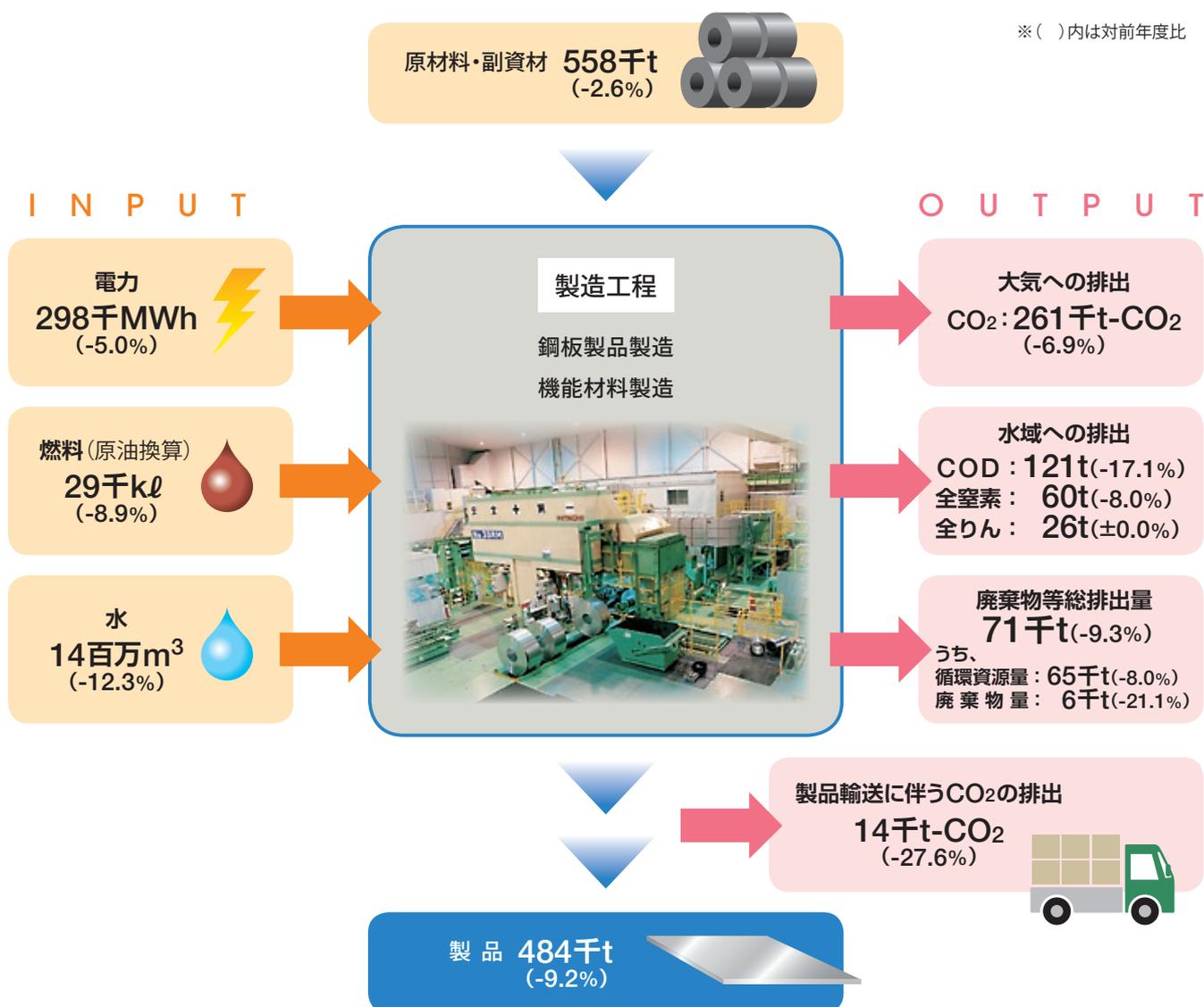
東洋鋼鈹グループの生産拠点である下松市は、瀬戸内海国立公園の青い海と緑豊かな山に囲まれた美しい自然の中に位置しています。この恵まれた環境との共生を図るために、積極的に環境負荷低減活動を展開しています。

物質フロー

東洋鋼鈹グループでは、ぶりきやラミネート鋼板をはじめとした各種表面処理鋼板、薄鋼板などの鋼板製品およびその加工品、電子機器部品、機能性フィルム、ならびに梱包用資材、機械器具、硬質合金などの製造を行っています。また、グループ内に物流会社を持ち、船および車両による製品輸送も行っています。

2009年度の環境面から見たグループの物質フローは下図のとおりです。主要な原材料は熱延コイルで、製品の製造工程におけるエネルギー源として電気、重油、都市ガスを使用、さらに表面処理時の洗浄や設備の冷却などに水を使用しています。その過程で、CO₂、COD、埋立廃棄物等が環境負荷物質として排出されています。

※()内は対前年度比



環境保全活動の歴史

東洋鋼鋸グループの環境保全活動の歴史をご紹介します。

- | | | | |
|-------|--|-------|---|
| 1934年 | 会社設立 | 1989年 | フィルタープレス脱水機導入 |
| 1959年 | 石炭ボイラーから重油ボイラーへ転換 | 1993年 | 磁気ディスク用基板製造工場
排水アルカリ処理設備設置 |
| 1960年 | 石炭発生炉ガスからLPGへ転換 | 1997年 | 磁気ディスク用基板製造工場
排水生物処理設備(没水濾床式)設置 |
| 1964年 | 含油排水処理装置(自然浮上槽)設置 | 1999年 | 下松事業所ISO14001認証取得 |
| 1965年 | 硫酸処理設備設置(硫酸鉄のリサイクル開始) | 2000年 | No.3焼却炉廃止(可燃性廃棄物社外委託処理開始) |
| 1970年 | 含油排水処理装置(薬注加圧浮上槽)設置 | 2002年 | No.1,2焼却炉廃止(廃油の社外委託処理開始)
下松事業所環境報告書発刊
東洋製罐グループ環境委員会発足 |
| 1971年 | 総合排水処理設備設置
(還元-中和-凝集沈殿-脱水) | 2003年 | LPGからLNGへ転換
本社に環境部を設置
東洋鋼鋸グループ環境会議発足 |
| 1972年 | ボイラー130m煙突設置
含油排水処理装置(薬注加圧浮上槽)増強 | 2004年 | 東洋鋼鋸グループ統合ISO14001認証取得
東洋鋼鋸(株)環境報告書発刊 |
| 1973年 | 総合排水処理設備増設(2系列化)
硫酸処理設備増強
二宮町境界線沿い防音壁設置
クロム流出事故(改善命令)環境管理室を設置 | 2005年 | 樹脂リサイクル設備設置
保護ガス製造設備更新 |
| 1974年 | アルカリ含油排水処理装置(薬注加圧浮上槽)設置
総合排水処理設備(還元-中和槽)増強
二宮町境界線沿い騒音常時監視システム設置 | 2006年 | 東洋鋼鋸グループ環境報告書発刊 |
| 1976年 | 低硫黄重油自動混焼装置設置 | 2007年 | 都市ガスボイラー設置 |
| 1981年 | スカム酸処理設備設置
(廃油スカムのリサイクル開始) | | |

編集後記

本年度は「環境報告書」を「社会・環境報告書」と名称変更し、内容もより社会性に関する報告を充実させました。また、当社は主に身近にあるさまざまな製品の素材となる表面処理鋼板の製造・販売を行っておりますので、当社の製品が世の中でどのように使われているのかを紹介するためのページも設けました。その中でも注目の新商品を2つ「TOPICS」としてご紹介し、ステークホルダー

のみなさまに当社の持つ技術、環境への配慮などについてわかりやすくお伝えできるよう、編集に努めました。東洋鋼鋸グループの今後のCSRの取り組みや報告書作成の参考とさせていただくため、読者の皆様にはぜひ忌憚のないご意見、ご感想をお聞かせいただければ幸いです。

S U S T A I N A B I L I T Y R E P O R T 2 0 1 0



東洋鋼鋅株式会社

〒102-8447 東京都千代田区四番町2番地12
TEL.03-5211-6211(代) FAX.03-5211-0181
<http://www.toyokohan.co.jp/>

■ ご意見をお寄せください。



大豆油インキを使用しています。